

議論すれば、何かの答えは出てくるから、そこは3年なら3年で必ず変わっていくんだということを制度として持てば、心配することはない。

**西田** 変革が、FCCの目的だと思ってる人が集まっているのかどうか。

**河田** どんどん変えていったらいいんですよ。初めの志のようなものを基準にこうあるべきだというよりも、これからどうあるべきだという視点から変えていったらいい。名前だけFCCだけど、中身は全然ちがうという、これは学問にはよくある話です。

#### ◇まとめ～FCCのこれからについて～

**河田** 土木学会というのは客観的に見て、本当に凋落の一途だと思う。それをどう巻き返すのかということ、みんな真剣に考えなきゃいけない。自分らがこうするというものが出てこない限りは、この組織は多分だめになってしまう。どこから与えられるものではなく、自分たちが血と汗の結晶として残そうとするものを明示して、アカウントビリティを高める。それしかないと思う。まだそこまですてきな技術者がいると思います。彼らに向けた<sup>なか</sup>内の啓発、これは絶対

やっていたかかないといけないですね。

**池亀** やっぱり個人と社会の関係を今見直すというか、社会の流れが変わらざるを得ない局面にいる以上、変えられるのは個人の思い、良心というか、個人そのものでしかないと思う。人に頼らずに自分でものを考えていく場として、ここを使うということが最も価値があることだと思います。

**西田** 簡単なようで非常に難しいことですが、土木界で仕事をしていくときに、自分が正しいと思うことを、自分の言葉でちゃんと喋れるようにする。その訓練の場がずっとFCCであったような気がします。これが関西支部の中にあって、関西支部独自の情報発信をしていく一番の原動力になるような、組織じゃなくて、個人であり、それは自分という単位で語れる場、そうあってほしいと思います。

**隅野** 何のために生きているのかということを考えるのと同じように、何のために土木技術者をやっているのかということを見失わないように、時々思い起こす場という意味でもこういう会は大事なのかなと思います。そういうことを考えていることが大事です。答えが安易に見つかるとは思いませんけれども…。

**西田** 今日は長時間どうもありがとうございました。

## コラム

### FCC青年の主張

#### 鈴木裕二

SUZUKI YUJI

正会員

(財)千里国際情報事業財団 専務理事



1995年「どぼくとおく'95阪神・淡路大震災とノースリッジ大地震との比較討論会」に参加して以来8年間、FCC活動として、土木界の先達、メディア・評論家、市民の方々と意見交換した。ユニークな企画では、土木技術者

の仕事観・価値観を考えてみるという趣旨で「ご住職」とも意見を交わした。私はこれらの活動でさまざまな「生の声」に触れてきた。その中では「構造的にわかりにくい業界」と評されたりしたが、最も印象に残った声は「土木技術者として矜持を持ちなさい」ということであった。

時には自分の思いと実際の仕事とのギャップにジレンマを感じることもあるし、限界を感じることもある。が、社会から期待されていることはまだまだ多いと感じている。急速に変化していく社会の中で、自分自身の仕事観も変化していかなければならない。このような中でも、社会から期待されているという土木技術者としての矜持は常に持ち続けたいと思っている。